

麻布大学大学院獣医学研究科 学位授与に係る評価基準

(制定 令和元年12月2日)

麻布大学大学院獣医学研究科学位授与に係る評価基準（以下「基準」という）を定め、麻布大学学位規則第8条に規定する学位論文審査基準及び麻布大学大学院獣医学研究科規則第9条第2項に規定する最終試験は、この基準により行うものとする。

【動物応用科学専攻 博士前期課程】

1. 学位論文の評価項目及び評価方法

学位申請論文の審査には、審査委員会委員（主査1人、副査2人以上）が次の5項目について別表1の評価基準に基づいて各評価項目を1～5点の整数で評価し、予備審査に当たっては、全ての審査委員が12点（25点満点）を付けたことをもって、予備審査終了とし、研究科教授会で発表者の承認を行う。論文審査（本審査）では、全ての審査委員が15点以上（25点満点）を付けたことをもって、論文審査を終了とし研究科教授会に報告する。なお、審査委員により著しく評価点に差異がある場合は、新たに審査委員1人を追加し、再評価を行った上で、主査が総合的に判断をする。

- (1) テーマのたて方：実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されていること。
- (2) 研究の背景：複数の情報源から、これまでに明らかになった知見を示し、整理し、自分が明らかにしようとしている研究目的に関連付けていること。
- (3) 研究の方法：目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示していること。
- (4) 研究の結果：研究で得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討していること。
- (5) 考察と結論：研究から明らかになったことについて記述し、専門基礎知識を用いて論理的に説明できていること。

2. 最終試験の評価項目及び評価方法

最終試験の評価には、審査委員会委員（主査1人、副査2人以上）が獣医学分野又は動物応用科学分野に関する専門的知識・能力について、次の5項目をそれぞれ1～5点の整数で評価し、全ての審査委員がそれぞれの15点以上（25点満点）を付けたことをもって最終試験を終了とし、研究科教授会に報告する。

- (1) 専門分野に関わる論文、特に英語論文の講読に必要な能力を有していること。
- (2) 得られた研究成績に関連する文献と対比しながら評価できる能力を有していること。
- (3) 専門分野で関心のある研究対象に関わる研究状況を正しく把握した上で、未解決の問題を明確にできる能力を有していること。
- (4) 研究成果を専門学会に発表することができ、適切なディスカッションを行う能力を有していること。
- (5) 高い倫理観を有し、それを実践できる能力を有していること。

3. 最終判定

次の要件を考慮し、当該分野に関する専門的知識と実践的能力を身に付け、問題把握・解決能力を備えているかどうかの評価を行い、研究科教授会において修士の学位授与の最終的な可否を判定する。

- (1) 論文審査基準を満たしていること。
- (2) 最終試験に合格していること。
- (3) 学位論文発表会で、口頭での発表と質疑応答が論理的にわかりやすく行われたこと。
- (4) 決められた課程中間発表会で発表していること。

【博士後期課程及び博士課程】

1. 学位論文の評価項目及び評価方法

学位申請論文の審査には、審査委員会委員（主査1人、副査2人以上）が次の6項目について別表2の評価基準に基づいて各評価項目を1～5点の整数で評価し、全ての審査委員が、15点以上（30点満点）を付けたことをもって、予備審査終了とし、研究科教授会で発表者の承認を行う。論文審査（本審査）では、全ての審査委員が20点以上（30点満点）をつけたことをもって、論文審査を終了とし研究科教授会に報告する。なお、審査委員により著しく評価点に差異がある場合は、新たに審査委員1人を追加し、再評価を行った上で、主査が総合的に判断をする。

- (1) テーマのたて方：独創的、具体的で明確なテーマが設定されていて、それについての仮説や調査項目が分かりやすく整理されて示されていること。
- (2) 研究の背景：信頼できる複数の情報源から、これまでに明らかになった知見や課題を整理し、自分が明らかにしようとしている研究目的に関連付けて活用していること。
- (3) 研究の方法：複数の研究方法や分析の視点から、目的とテーマにふさわしいいくつかの研究方法を用い、明確な分析の視点を示していること。
- (4) 研究の結果：実験データや調査などについて整理と解析が十分になされ、焦点に沿って研究した内容

を組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型（パターン化）の発見など様々な観点から検討していること。

- (5) 考察と結論：研究から明らかになったことについて整理し、専門基礎知識（自分の専門分野の概念や枠組み）を効果的に用いて、独自の考察を展開し、論理的に説明できていること。
- (6) 参考論文：適切に引用していること。

2. 最終試験の評価項目及び評価方法

最終試験の評価には、審査委員会委員（主査1人、副査2人以上）が獣医学分野又は動物応用科学分野に関する専門的知識・能力について、次の5項目をそれぞれ1～5点の整数で評価し、全ての審査委員がそれぞれの15点以上（25点満点）を付けたことをもって最終試験を終了とし、研究科教授会に報告する。

- (1) 専門分野に関わる論文、特に英語論文の講読に必要な能力を有していること。
- (2) 得られた研究成績に関連する文献と対比しながら評価できる能力を有していること。
- (3) 専門分野で関心のある研究対象に関わる研究状況を正しく把握した上で、未解決の問題を明確にできる能力を有していること。
- (4) 研究成果を専門学会に発表することができ、適切なディスカッションを行う能力を有していること。
- (5) 高い倫理観を有し、それを実践できる能力を有していること。

3. 最終判定

次の要件を満たし、当該分野に関する十分に広範な知識を有し、自立して研究を行う能力と研究成果を外部に発表（国際学会等）できる能力を備えているかどうかの評価を行い、研究科教授会において博士の学位授与の最終的な可否を判定する。

- (1) 論文審査基準を満たしていること。
- (2) 最終試験に合格していること。
- (3) 研究成果の全部又は一部を、筆頭著者として学術原著論文※に既に公表していること。
※学術原著論文については、「麻布大学大学院獣医学研究科獣医学専攻博士課程及び動物応用科学専攻博士後期課程の参考論文に関する内規」による。
- (4) 学位論文発表会で、口頭での発表と質疑応答が論理的かつ明確に行われ、審査員及び聴衆を納得させたこと。
- (5) 決められた課程中間発表会で発表していること。

【麻布大学学位規則第4条第2項による学位申請者】

博士後期課程及び博士課程の学位論文の評価基準を適用する。

【改廃手続】

この基準の改廃は、獣医学研究科教授会の意見を聴いて学長が行う。

附 則

- 1 この基準は、令和元年12月2日に制定し、令和2年4月1日から施行する。
- 2 麻布大学大学院獣医学研究科学学位論文審査基準（平成26年1月27日制定）は廃止する。

別表1

学位論文評価基準（博士前期課程）

※点数 評価項目	5	3	1
テーマのたて方	明確で、実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目がわかりやすく示されている。	実現可能なテーマが設定されており、一般的な仮説や調査項目が示されている。	曖昧なテーマが設定されており、仮説や調査項目が分かりにくい。
研究の背景	複数の情報源から、これまでに明らかにされた先行研究の知見を整理して示し、自分が明らかにしようとしている内容と関連付けている。	複数の情報源から、これまでに明らかにされた先行研究の知見を整理して示している。	限られた情報源から、これまでに明らかにされた先行研究の知見を列挙して示している。
研究の方法	研究の目的とテーマにふさわしい複数の研究方法を用い、明確な分析の視点を示している。	研究の目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究の目的とテーマに関連した研究方法を用いているが、分析の視点が明確になっていない。
研究の結果	実験や調査で得られたデータを図や表を有効利用して組織的にまとめ、類似点・相違点・重要な型（パターン化）の発見など様々な観点から解析している。	実験や調査で得られたデータを図や表を利用してまとめ、類似点・相違点・パターン化など何らかの法則性を示そうとしている。	実験や調査で得られたデータを列挙しているのみであり、類似点・相違点・パターン化など何らかの法則性を検討することが十分にされていない。
考察と結論	研究から明らかになったことについて整理し、専門基礎知識を効果的に用いて、論理的に説明できている。	研究から明らかになったことについて記述し、専門基礎知識をある程度用いて論理的に説明できている。	研究から明らかになったことについての記述はできているが、専門基礎知識を用いて、論理的に説明ができていない。

※2、4点＝下位の点数の基準を上回っているが、上位の点数の基準を満たしていない場合につける。

別表2

学位論文評価基準（博士後期課程及び博士課程）

※点数 評価項目	5	3	1
テーマのた て方	独創的で、明確な テーマが設定され ており、それにつ いての仮説や調査 項目が分かりやす く整理されて示さ れている。	実現可能なテーマ が設定されてお り、それについて の仮説や調査項目 が示されている。	実現可能なテーマ は設定されている が、仮説や調査項 目が分かりにく い。
研究の背景	信頼できる様々な 情報源から、これ までに明らかにさ れた先行研究の知 見や課題を整理 し、自分が明らか にしようとしてい る内容に関連付け て活用している。	複数の情報源か ら、これまでに明 らかにされた先行 研究の知見を示 し、整理している が、自分の研究テ ーマとの関連性を 十分に示していな い。	限られた情報源か ら、これまでに明 らかにされた先行 研究の知見を、何 かしら紹介してい るが、自分の研究 テーマとの関係が 乏しい。
研究の方法	研究の目的とテーマ にふさわしい複 数の研究方法を用 い、明確な分析の 視点を示している。 研究内容を深化 させる分析手法 が示されている。	研究の目的とテーマ に沿った研究方 法を用い、分析の 視点を示してい る。画一的な分析 手法となっている。	研究の目的とテーマ に沿った分析の 視点が十分に示さ れておらず、簡単 な分析手法しか示 されていない。
研究の結果	焦点に沿って実験 や調査で得られた 十分なデータを図 や表を有効利用し て組織的にまと め、類似点・相違 点・重要な型（パ ターン化）の発見 など様々な観点か ら解析している。	実験や調査で得ら れたデータを図や 表を利用してまと め、類似点・相違 点・パターン化な ど何らかの法則性 を示している。	実験や調査で得ら れたデータを列挙 しているのみであ り、関連づけてま とめることができ ていない。
考察と結論	研究から明らかにな ったことについて 整理し、専門基 礎知識（自分の専 門分野の概念や枠 組み）を効果的に 用いて、独自の考 察を展開し、仮説 との整合性など、 論理的に説明でき ている。	研究から明らかにな ったことについて 記述し、専門基 礎知識をある程度 用いて説明できて いるが、独自の考 察がやや不十分で ある。	研究から明らかにな ったことについて の記述はできて いるが、独自の考 察が十分にできて おらず、論理的な 整理がついていな い。
参考論文	研究内容との関連 性や研究着手の経 緯、研究方法、考 察の展開におい て、適切な参考図 書や参考文献が必 要な数だけ引用さ れている。	研究の背景におけ る先行研究や研究 方法における適切 な参考図書や参考 文献が必要な数だ け引用されている が、考察の展開に おいて、十分には 引用されていない。	適切な参考図書や 参考文献が十分に は引用されていない。

※2、4点＝下位の点数の基準を上回っているが、上位の点数の基準を満たしていない場合につける。